

第5学年*組 道徳学習指導案

指導者

本時の視点	多様な考えに触れ、道徳的価値を自覚させるための授業展開の工夫
-------	--------------------------------

1 主題名 信じ合う心 2-(3) 友情

2 ねらい 友達を理解し、互いに信じ合って友情を深めようとする態度を養う。

3 資料と出典 「友のじょうぞう画」(文部省)

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年における内容項目の2-(3)は、「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力して助け合う。」である。これは、友達関係において基本とすべき精神を述べたものであり、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとするものである。高学年においては、お互いの信頼のもとに学び合う活動を通して互いに磨き合い、眞の友情を育てることを目指している。

高学年の児童は、友達と仲よくして助け合っていこうとする意識は育っている。また、友情の在り方について考え、眞の友情を育てたいと願う心をもち始める時期でもある。しかし、自分勝手な考え方や些細なことでの感情の行き違いで、友達関係が台無しになってしまったり、相手からの思いやりばかりを期待したりすることもある。

そこで、ここでは、友達とは単に仲がよいだけではなく、互いをよく理解し、助け合い、信じ合うことで友情が深まることに気付かせたい。また、眞の友情や友情の尊さについて理解を深め、友情がより確かなものになるよう指導したい。

(2) 児童の実態 (*名)

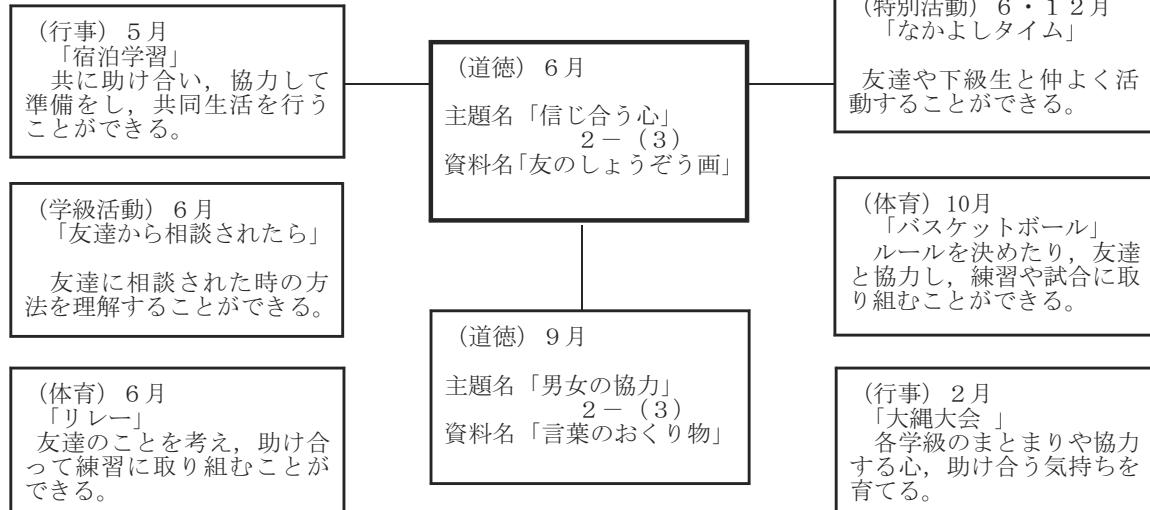
本学級の児童は、学校生活にもだいぶ慣れ、学習や遊びも活発になっている。以前と比べると、友達同士の関わりも多くなり、休み時間には鬼ごっこなどで元気に遊んだり、声をかけ合って係活動をしたりする場面が見られる。また、事前調査から、学校で「楽しい」と感じることの一つに「友達と一緒に遊ぶとき」を挙げる児童が多く、友達の存在は児童にとって大きなものとなっていることが分かった。また、友達は困った時に優しくしてもらったり、助けてもらったりしてくれる存在であることを感じている児童がいる。一方で、相手から何かをしてもらうことを期待した受動的な考え方から抜け出せない児童もいることも分かった。ここでは、児童の友達に対する素直な気持ちを引き出すと共に、「相手の気持ちを考え、友達を大切にしようとする」というねらいとする価値に気付くことができるようにならう。また、登場人物と自分を重ねたり、普段の生活を振り返ったりすることを通して、友達を思いやる温かい心情を養っていきたい。

(3) 資料について

本資料は、友情を誓い合って離ればなれになった幼なじみの和也（ぼく）と正一のその後の行動から友情について深く考えさせる資料である。しばらく互いに文通していたが、そのうち病気で療養していた正一からの手紙が来なくなることで和也も手紙を書かなくなってしまった。一年ほどして、和やは正一が筋肉を鍛えるために挑戦した「友のじょうぞう画」という作品を見て、自分に対する正一の気持ちを知り、涙を流す。互いを理解し、信じ合って友情を深めていこうとする心情を養う上で有効な資料であると考える。

5 全教育活動における道徳の時間との関連

(1) 関連



(2) 深化を意図した指導の工夫

児童は、今までの経験から友達は大切なものであることは分かっている。しかし、友達や友情の在り方について深く考える機会は十分ではない。本授業では、和也の正一に対する思いを「友情メーター」を用いて表し、その変化を視覚的に捉えることができるようになるとともに、なぜそのように変化したのかの根拠を明らかにすることによって、ねらいとする価値を深化させていきたい。また、グループで話し合わせる活動を取り入れ、多様な考えに触れることで、友達や友情の在り方についてより深く考える機会としたい。

6 本時の指導

(1) 準備・資料

場面絵、事前アンケートの結果、友情メーター、ワークシート

(2) 展開

主な活動と問い合わせ	児童の予想される反応	指導上の留意点・評価
1 自分にとっての「友達」について話し合う。 ○あなたにとって友達とはどんな人ですか。	・遊ぶと楽しい。 ・助けてくれる。 ・相談できる。 ・何でも話し合える。	・事前にとおいたアンケートも活用し、ねらいとする価値への方向付けをする。
2 資料「友のしようぞう画」の範読を聞き、話し合う。 ○「ぼく」は、どんな気持ちで正一を見送ったのでしょうか。 ○正一から手紙がこなくなつて「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。 ○「友のしようぞう画」を見たとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。	・ずっと友達だよ。 ・もう会えなくなってしまうのかな。 ・寂しいな。 ・療養をがんばって。 ・どうしたのだろう。 ・具合が悪くなってしまったのかな。 ・新しい友達ができたのかな。 ・ぼくのことなんて忘れてしまったのだろう。 ・がんばったな。 ・すごいな。 ・ぼくをかいてくれてありがとう。 ・正一を疑つてしまつて悪かったな。 ・ごめんね。 ・また手紙を書こう。 ・いつまでも友達だよ。	・親しい二人の関係について十分に押さえてから発問に入る。 ・「友達メーター」を使って「ぼく」の気持ちを考えいくことを伝えておく。 ・正一のことを心配する思いだけではなく、自分本位な思いもあることにも気付かせさせたい。 ・「友達メーター」が変化する理由を考えさせ、グループで話し合うことで、多様な考え方方に触れさせたい。 ・版画を見たときの衝撃や正一への思いの変化をしっかりとと考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・「ぼく」が正一を信頼しきれずにいたことを後悔するとともに、正一の自分に対する思いに気付いたことを児童と共有することで価値への焦点化を図つていきたい。 ・正一がどんな思いで版画を作ったのかということにも触れることで、「ぼく」の思いを考える助けとしたい。 評 「ぼく」の心の変化を通して、友達を理解し、信頼しようとする気持ちをもつ。(ワークシート・発表) ・ワークシートに、本時の学習を通して大事にしようと思ったことを書く活動を設け、自分をみつめる手立てとしたい。 ・「友」という漢字の成り立ちについて話をする。 ・「私たちの道徳」P72の詩を範読し、余韻を残して終わりたい。
3 今までの自分を振り返り、話し合う。 ○ 今日の授業で、あなたが大事にしたいと思ったことは何ですか。	・友達のことを大切にしたい。 ・離れていても、友達は大切なんだ。 ・友達のことをよく分かつてあげないといけないな。	
4 教師の説話を聞く。		

(3) 事後の指導

学級活動で行う「友達のよいところ」での掲示を継続したり、学習や日常生活の中での活動を通して友達を大切にしようとすることへの意欲付けを行う。

(4) 板書計画

友情	友情	友情	友情
文通 場面絵 心の底から友達っていいなと思つたとき 「一が友んばつたな。正一が一年もかけてすごいな。 ぼくをかいてくれてうれしいな。正一をうたがつてしまつて悪かつたな。これから友達だ。」	文通 友情 場面絵 「一から手紙がこなくなる 具合が悪くなつたのかな。 ぼくのことなんかわすれてしまつた んだ。新しい友達ができたんだな。」	文通 友情 場面絵 「一を見送る さびしい もう会えないかな。 ずっと友達だよ。」	文通 友情 正一 ぼく 九州のりょう養所 難病 「大きくなつても、ずっといっしょ 遊ぶと楽しい。 おさななじみ・いっしょ 野球 「大さなじみ・いっしょ 遊ぶと楽しい。 相談にのってくれる。」